

【教訓】 204頁 芳賀茂元氏

八幡市第一の財産を持ち、貴族院議員まで出世された芳賀氏が、病を得て、自分の身体までも思いのままにならないことを知り「今度病気が全快したら必ず寺に参詣し、寺の世話もする」と法話に行つたときに約束されて、奈良まで説教を聞きにこられた。その帰途、本山の御真影の前でおしていると、上品な老人が参詣していて、二人で身分を語り合い、その老人が、「芳賀さん、私も福井の千万長者だが、息子に任して諸国をお念仏で遍歴さしていただいているが、この世が黒字になつているときは、未来は赤字が出ているのでございますから、信仰よりほかの道はありませんよ」と言われたのが、聖人さまよりのお言葉のように有難く思えた。

仏法の家に生まれながら、寺の総代の勘定までしながら、何を聞いていたろうかと煩悶し、臨終が近寄つたとき、身動きならぬ業のまま猛火の中に飛び込まねばならんと泣いていたとき、われ能く汝をらんの声なき声に生かされて、大満足して大往生された。